

物価高騰に関する意識調査

NPO法人ドットジェイピー
文責：山口 翔也

Marketing Group, dot-jp,
the specified nonprofit corporation



2008年8月12日～9月2日の2週間、
全国の大学生 968名に対して、
物価高騰に関する意識調査を実施いたしました。

大学生：院生、専門学生、短大生を含む
(次ページ以下、大学生とは上記学生を含めるとする)₂

- 調査概要
- 質問項目
- 調査対象について
- 物価高騰の生活への影響
- 節約術、最近何に一番お金を使ったか
- 物価高騰に対して政府はどうすべきか

調査概要



- 対象 全国の大学生 968名
- 期間 2008年8月12日～9月2日
- 調査目的
物価高騰に対する若者の意見を社会に届けるため
- 調査方法
弊団体スタッフの広報によるWEBアンケート、紙媒体の配布
- 調査内容
8月8日に開催される北京オリンピックについて、
物価高騰の生活への影響、節約術、最近何が一番お金を使ったか、
物価高騰に対して政府はどうすべきかなど

質問項目 - 1



問1. ガソリンの価格が上がっていますが、車やバイクなどの利用頻度は変わりましたか？

変わった（利用を控えている） 変わらない 車やバイクなどを運転しない

問2. 最近の物価高を受けて、あなたの生活の中で一番圧迫しているものは何ですか、【1つ】お答え下さい。

ガソリン 光熱費 酒、たばこ等の嗜好品 雑費（旅行または交際費など）
食料品 特にない その他

問3. 問2で『その他』を選ばれた方にお聞きします、何が一番圧迫していますか、よろしければお答え下さい。

問4. 問2において「食料品」を選ばれた方にお聞きします、
食料品の中で一番圧迫しているものは何ですか【1つ】お答え下さい。

お菓子 カップラーメンなどのインスタント食品 牛乳やバターなどの乳製品
魚 調味料系 肉
パン製品 野菜 上記以外の食品

問5. 物価高のために、節約をしているものはありますか、あてはまるもの【すべて】をお答え下さい。

食費（家での食費） 食費（外食） 交通費
交際費（デートや友人との付き合い） 娯楽費 教養費（書籍代など）
服飾費 携帯利用料 その他 節約はしていない

問6. 問5で『その他』を選ばれた方にお聞きします、何を節約していますか、お答え下さい。

問7. あなたの節約術をお答え下さい。

問8. ところで、今年（2007年8月～2008年8月現在）の出費の中で、一番高額だったものは何ですか。

衣料品 海外旅行 貴金属 車の購入
携帯電話（本体） 化粧品 国内旅行 テレビ
引っ越し パソコン その他

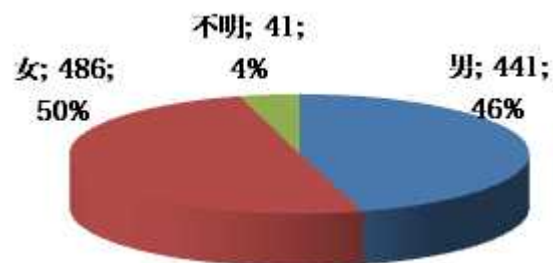
問9. 問8でお答えいただいたものはいくらですか、お答え下さい。

問10. 問8で『その他』を選ばれた方にお聞きします、何が一番高額でしたか、お答え下さい。

調査対象について（性別・学部・学年）

性別

性別	人数(人)
男	441
女	486
不明	41
総計	968



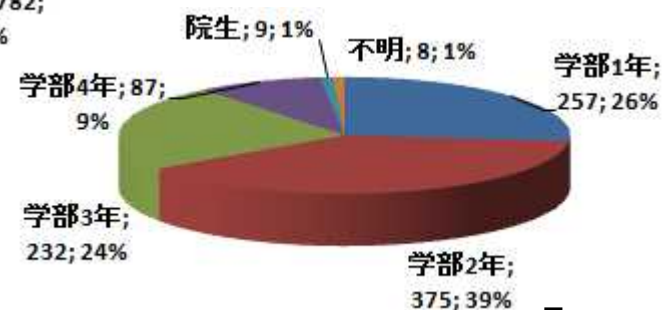
学部

学部	人数(人)
文系	782
理系	138
その他	33
不明	15
総計	968



学年

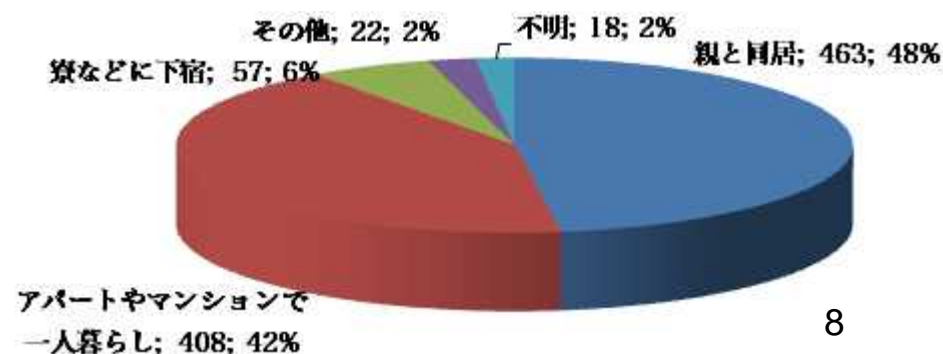
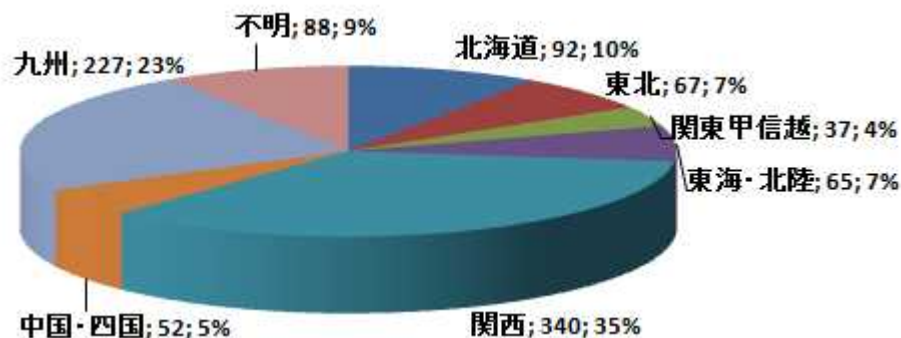
学年	人数(人)
学部1年	257
学部2年	375
学部3年	232
学部4年	87
院生	9
不明	8
総計	968



調査対象について（地域・居住形態）

地域	地域	人数(人)
	北海道	92
	東北	67
	関東甲信越	37
	東海・北陸	65
	関西	340
	中国・四国	52
	九州	227
	不明	88
	総計	968

居住形態	人数(人)
親と同居	463
アパートやマンションで一人暮らし	408
寮などに下宿	57
その他	22
不明	18
総計	968



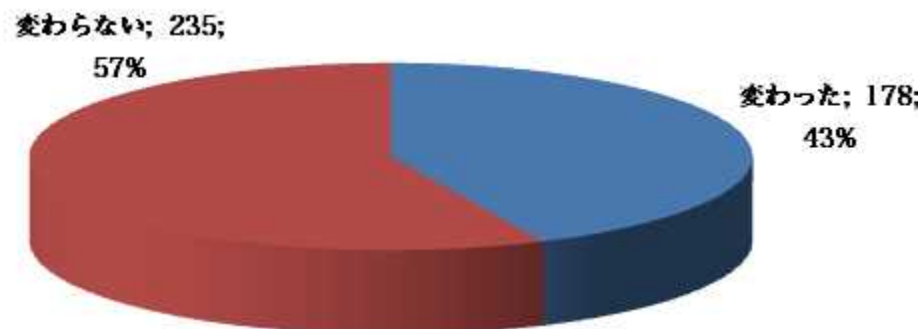
物価高騰の生活への影響

車やバイクの利用頻度は変わったか

利用頻度 変わらない 57%!

ガソリンの高騰によって車やバイクの利用頻度が「変わった」と回答した人は全体の43%を占めている。車やバイクを利用する大学生の半数以上が、「変わらない」と回答しており、車やバイクの利用者が減っている現在の社会情勢とは異なった結果が表れた。

	人数(人)
変わった	178
変わらない	235

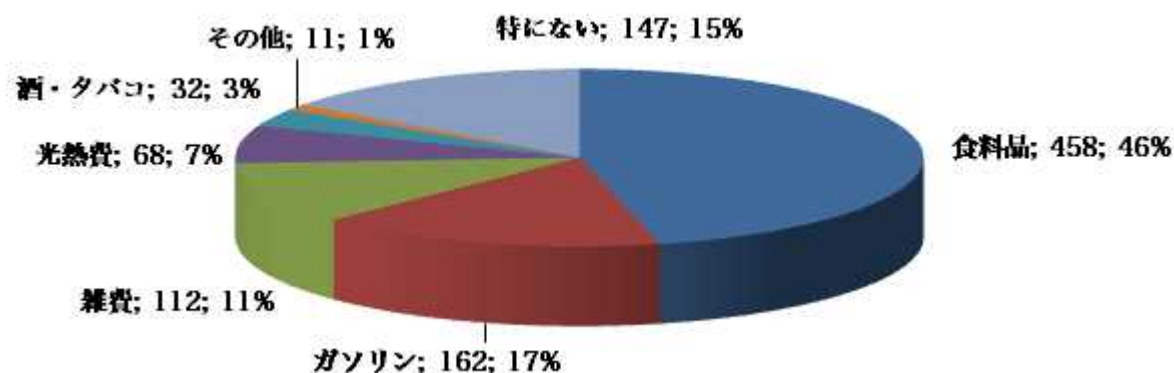


物価高により生活を一番圧迫しているものは

生活が圧迫されている 85%！一番圧迫しているもの「食料品」46%！！

「圧迫しているものは特にない」と回答した人は15%であり、全体の85%が物価高により生活が圧迫されていると考えられる。一番回答を多く集めたのは「食料品」の46%。次は「ガソリン」の16%だった。元気の源である『食』が圧迫されていることに注目したい。

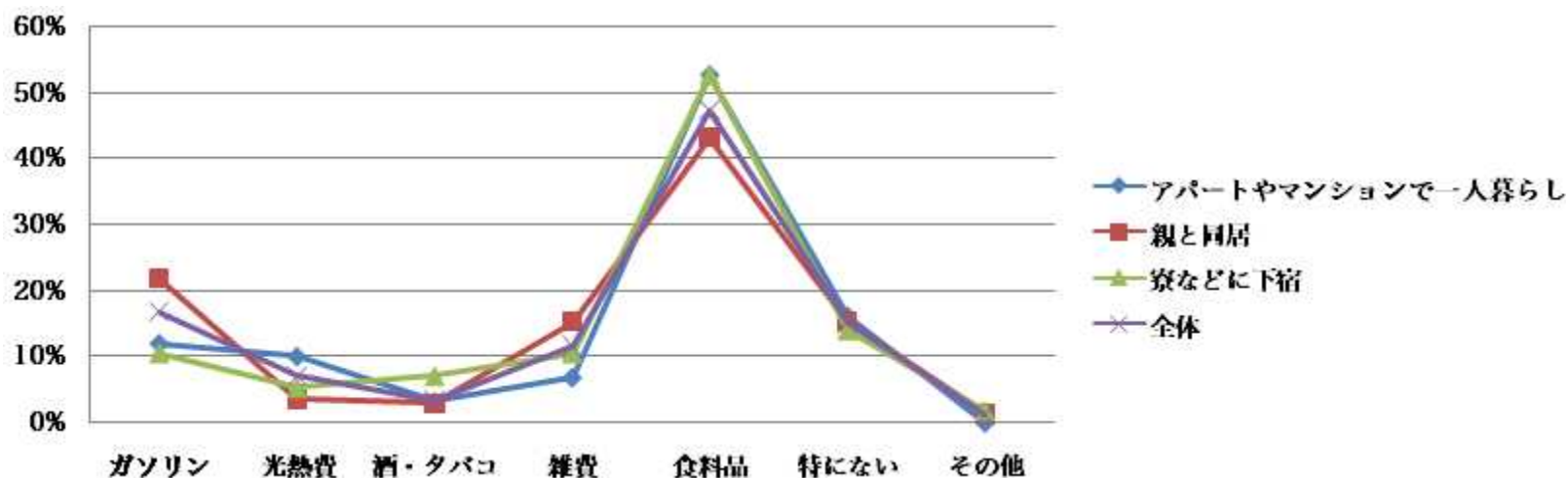
	人数(人)
食料品	458
ガソリン	162
雑費	112
光熱費	68
酒・タバコ	32
その他	11
特にない	147



居住形態と生活を圧迫するものとの関係

一人暮らし・下宿 半数以上が食料品に圧迫されている。

どの居住形態にとっても、食料品が一番圧迫している。
 居住形態別にみると、一人暮らしや下宿をしている人は、親と同居している人よりも、「食費」「光熱費」が生活を圧迫していると回答する割合が高い。また、親と同居している人は、食費や光熱費があまりかからないためか、「ガソリン」「雑費」の割合が高い。

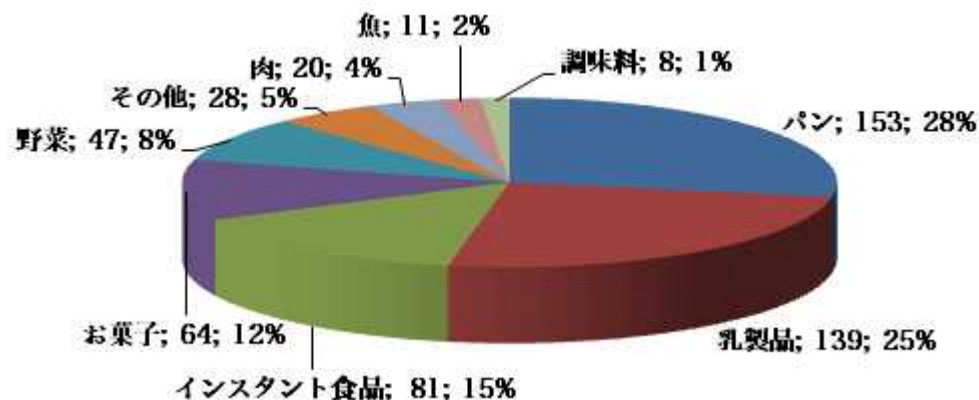


食料品の中で何が生活を圧迫しているか

パン（27%）、乳製品（25%）、インスタント食品（15%）で約7割圧迫

パンもインスタント食品も『主食』として食べるものであり、それらが高騰することは、『食事を抜く』ということに繋がりがかねない。また、乳製品はカルシウムの宝庫であり、乳製品離れが進めば、若者の健康や『骨』への影響に繋がる。

	人数(人)
パン	153
乳製品	139
インスタント食品	81
お菓子	64
野菜	47
その他	28
肉	20
魚	11
調味料	8



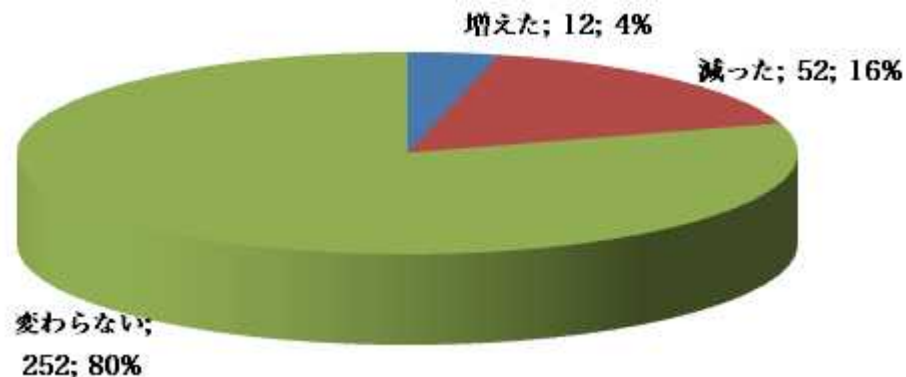
仕送りの額は一年前に比べて変化したか(一人暮らし、下宿)

「変わらない」 80%

仕送りの額は、一年前に比べ、「増えた」と回答した人が4%、「減った」と回答した人は16%、「変わらない」と回答した人は80%である。物価が高騰するということは、学生は生活費が実質的に減少し、仕送りを増やしてもらいたい。しかし、親も経済的に余裕がないため「変わらない」が8割を占めたと考えられる。

また、仕送りが減った理由として、親が経済的に余裕がなくなっているからと考えられる。

	人数(人)
増えた	12
減った	52
変わらない	252



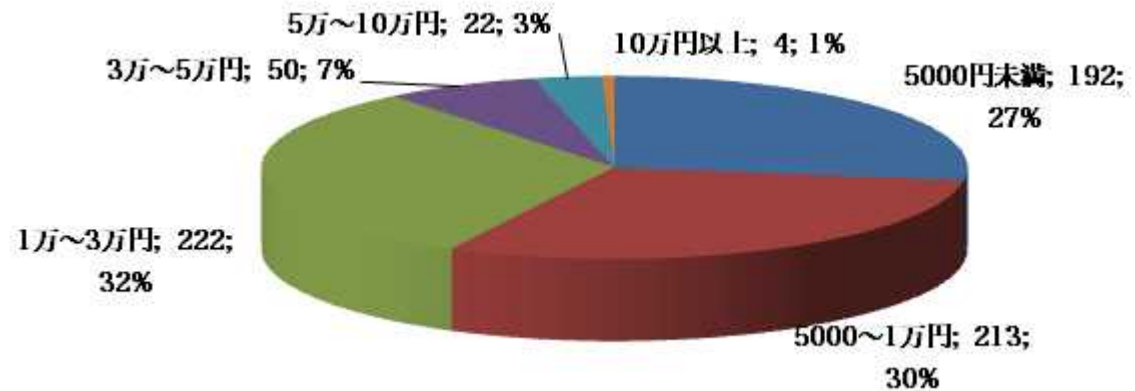
生活費にどのくらいの不足を感じるか

生活費不足 73%

不足を感じると回答した人が703人いた。これは総サンプル数968人の73%にも及び、73%が生活費に不足を感じている。

また不足の程度だが、生活費について、27%が5000円未満の不足、30%が5000～1万円の不足、32%が1万～3万円の不足だと答えた。

	人数(人)
5000円未満	192
5000～1万円	213
1万～3万円	222
3万～5万円	50
5万～10万円	22
10万円以上	4
総計	703



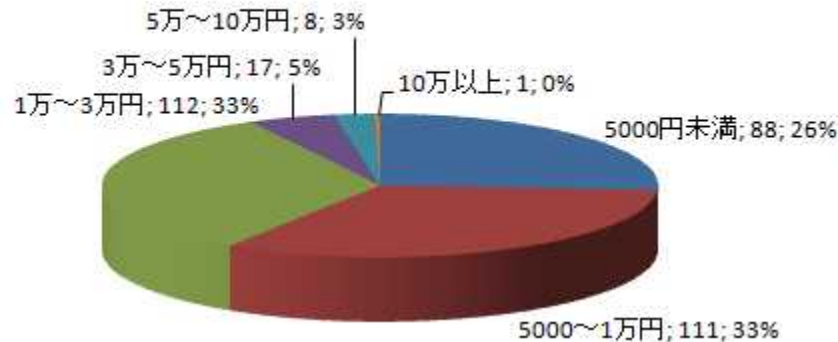
生活費にどのくらいの不足を感じるか（居住形態別）

全体的に、親と同居の方が生活費に不足を感じているという傾向がある。また、寮などに下宿している場合、もともとの生活費が低く抑えられるためか、5000円未満が半数を占めている。

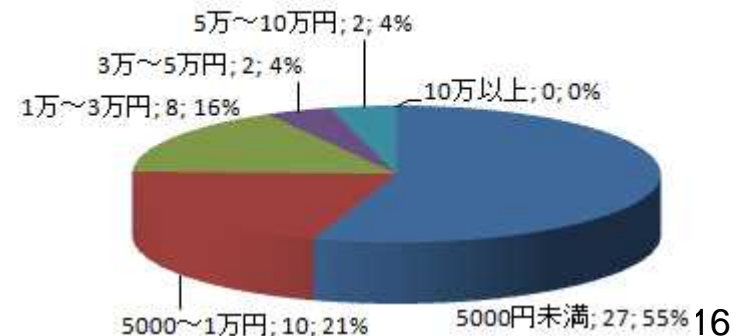
親と同居



アパートやマンションで一人暮らし



寮などに下宿



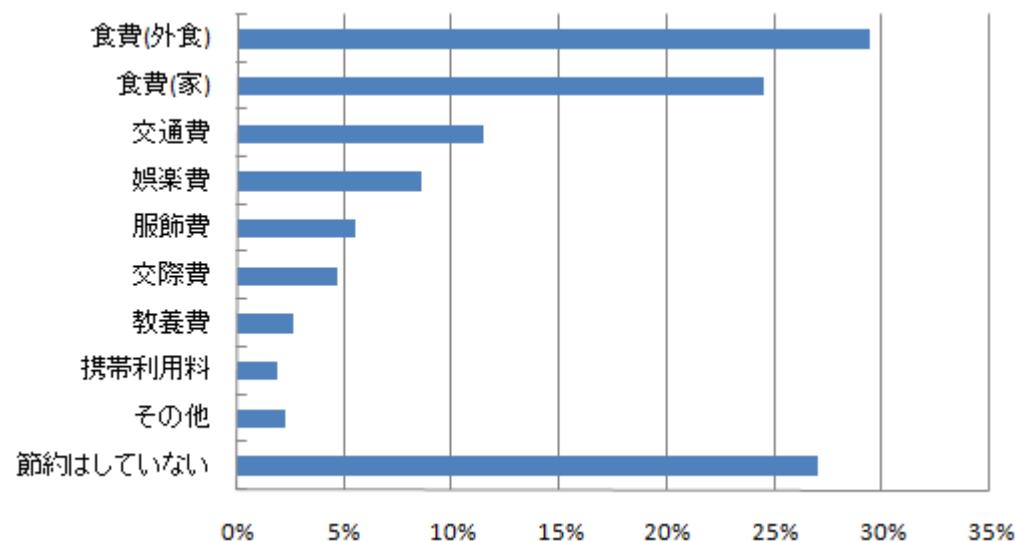
節約術、最近何に一番お金を使ったか

物価高対策で何か節約をしているか

物価高対策 食費節約 約30%

何も節約をしていないのは全体の27%にすぎず、73%が何らかの節約をしている。3割近くが「外食」、「家での食事」と『食費』を選び、「交通費」、「娯楽費」、「服飾費」がそれに続いた。また、「その他」は、電気、ガス、水道代などがほとんどであった。

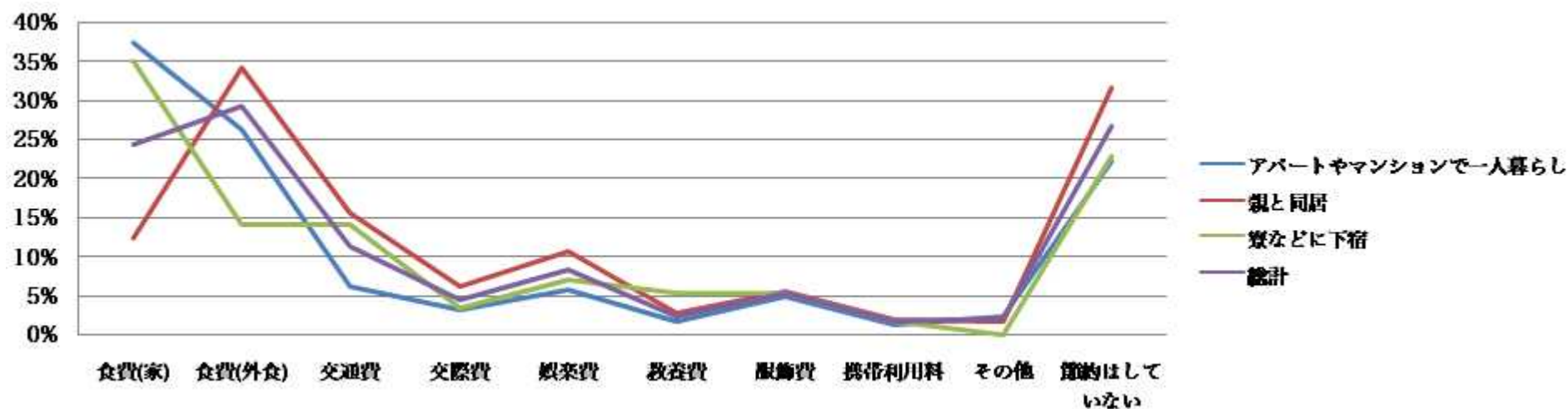
	人数(人)
食費(外食)	285
食費(家)	237
交通費	111
娯楽費	83
服飾費	53
交際費	45
教養費	25
その他	22
携帯利用料	18
節約はしていない	261



こちらは複数回答かつ回答者全体(968人)のものであるため、足しても100%にはなりません。

物価高対策で何か節約をしているか（居住形態別）

節約をしていないと答えた割合は、親と同居している人が一番高い。
また、一人暮らしは家での食事を節約し、
親と同居している人は外食を節約しているという傾向がある。

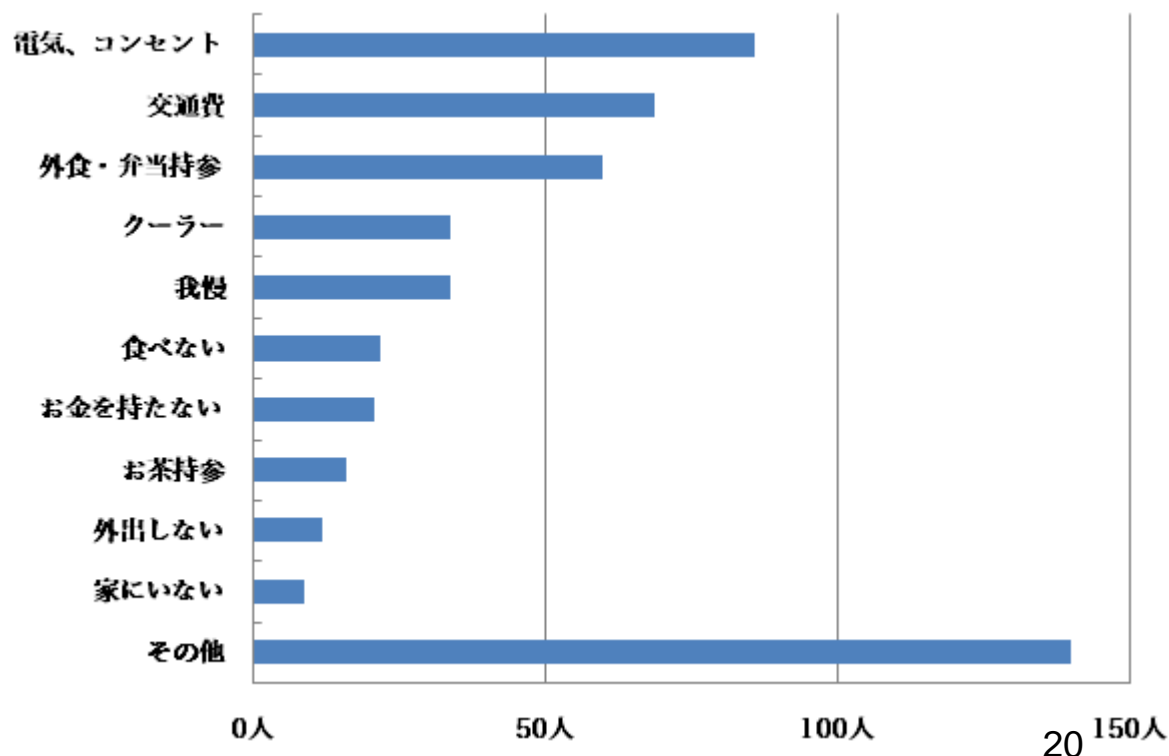


こちらは複数回答ありかつ回答者全体(968人)のものであるため、足しても100%にはなりません。

節約術は何か

節約術として最も多いのが、
電気をこまめに消すこととコンセントをこまめに抜くことであった。
その他、車を使わずに歩く・自転車に乗る、外食を控え弁当お茶を
持参すること、クーラーを使わないことなどがあつた。

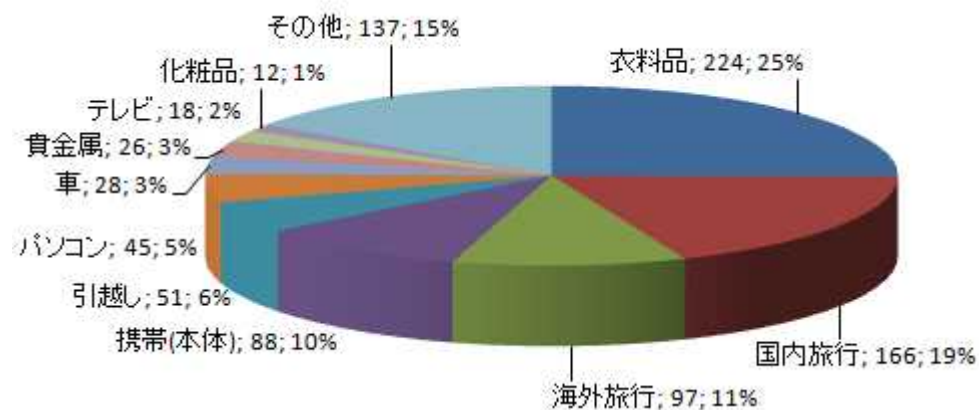
	人数(人)
電気、コンセント	86
交通費	69
外食・弁当持参	60
クーラー	34
我慢	34
食べない	22
お金を持たない	21
お茶持参	16
外出しない	12
家にいない	9
その他	140



ここ一年で一番の出費は何か

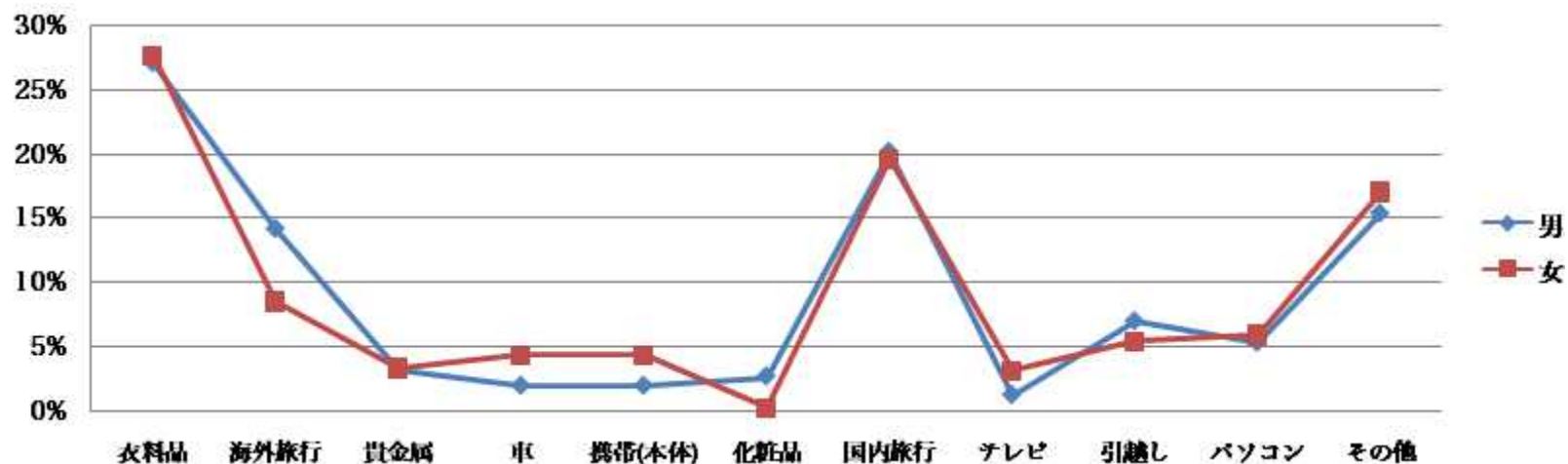
ここ一年で一番の出費は、衣料品が25%を占め一番、国内旅行、海外旅行、携帯本体がこれに続いた。その他のものには、楽器交通費、デジカメ等の他、自動車学校のお金や、大学の入学金、授業料、予備校の授業料等もみられた。

	人数(人)
衣料品	224
国内旅行	166
海外旅行	97
携帯(本体)	88
引越し	51
パソコン	45
車	28
貴金属	26
テレビ	18
化粧品	12
その他	137



ここ一年で一番の出費は何か（男女別）

ここ一年で一番の出費は、男女共に衣料品が25%を占め一番である。全体的に見て、男女で大きな違いはあまりみられない。一番の違いが顕著だったのは、『海外旅行』であった。

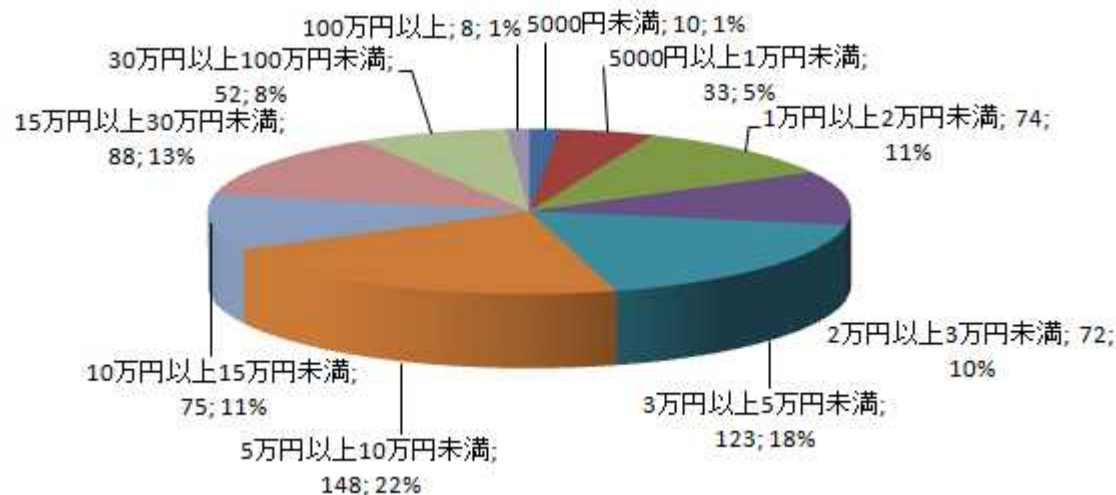


ここ一年で一番の出費の金額

学生間にも貧富の差進む？！

一番の出費額は、3万円～10万円というのが多い。また、他の金額にも幅広く分布しているのが特徴である。特に、最低額が2000円、最高額が300万円であることから、『貧富の差』というのを感じる。

	人数(人)
5000円未満	10
5000円以上1万円未満	33
1万円以上2万円未満	74
2万円以上3万円未満	72
3万円以上5万円未満	123
5万円以上10万円未満	148
10万円以上15万円未満	75
15万円以上30万円未満	88
30万円以上100万円未満	52
100万円以上	8

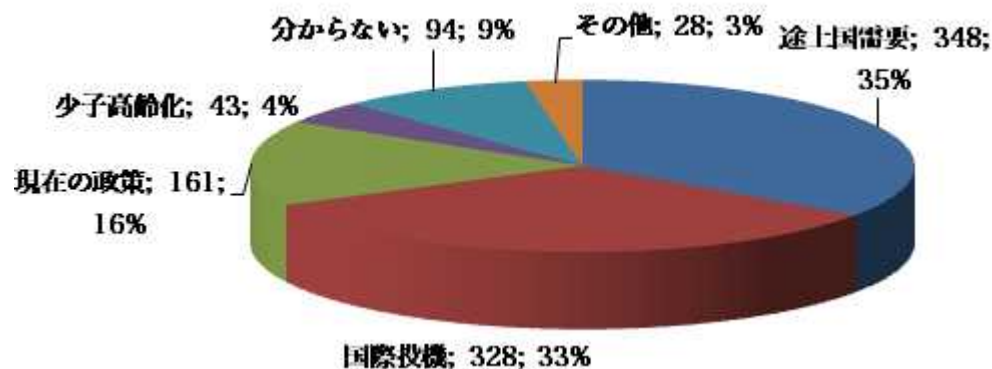


物価高騰に対して政府はどうすべきか

物価高騰の理由は何だと思うか

途上国の需要増大の結果 35%!
 物価高騰の理由としては、「途上国の需要増大」が35%を占め一番、「国際投機」、「政策」がそれに続いた。
 「その他」としては、理由は様々な複合要因であるというものや、バイオ燃料の生産拡大、原油の消費拡大などがあげられている。

	人数(人)
途上国需要	348
国際投機	328
現在の政策	161
少子高齢化	43
分からない	94
その他	28



物価高騰に対して政府は対策をとるべきか

政府は何らかの対応をとるべき 約8割！

全体の79%が、政府は何らかの対応をとるべきだと答えている。
政府に対する期待が大きいようだ。

一方、その他の意見には、政府は何らかの対応をとるべきだが
その方法やさじ加減は難しいのではないかという懸念が多くあった。

	人数(人)
とるべき	761
とるべきでない	63
分からない	110
その他	18

